

# 教育から日本の格差と貧困を考える一県内私立大学生へのアンケート調査から見えてきた奨学金問題一

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-06-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐藤, 滋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/23981">https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/23981</a>

# 教育から日本の格差と貧困を考える

## ——県内私立大学生へのアンケート調査から見えてきた 教育財政の矛盾——

佐藤 滋

### 1. 国際比較からみる日本の教育財政——過重な自己責任

「奨学金訴訟」という言葉がある。日本学生支援機構が原告に立ち、貧困に喘ぐ若者たちを相手に次々と訴訟を起しているという。日本学生支援機構側が取り立てを強化したこともあり、訴訟件数は2012年度には6193件にまで増大し、わずか8年間で「100倍」になったというのだから驚くべき事態である<sup>1</sup>。奨学金を借り入れた以上、それを返還せよというのはもっともらしく聞こえるが、教育財政の矛盾を若者たちのみに帰すだけでは問題は解決しない。どういうことだろうか。

まずは図1をみてほしい。図1は公的高等教育機関の平均授業料を縦軸とし、横軸に奨学金の受給者割合を示したものである。これをみれば日本の高等教育機関の授業料の高さは一目瞭然である。日本よりも授業料が高い国はアメリカとチリのみである。日本のデータがプロットされているところの左に図示されている矢印は、年々日本の授業料が高騰している様子を表している。

---

<sup>1</sup> 2014年8月10日付朝刊「朝日新聞」。

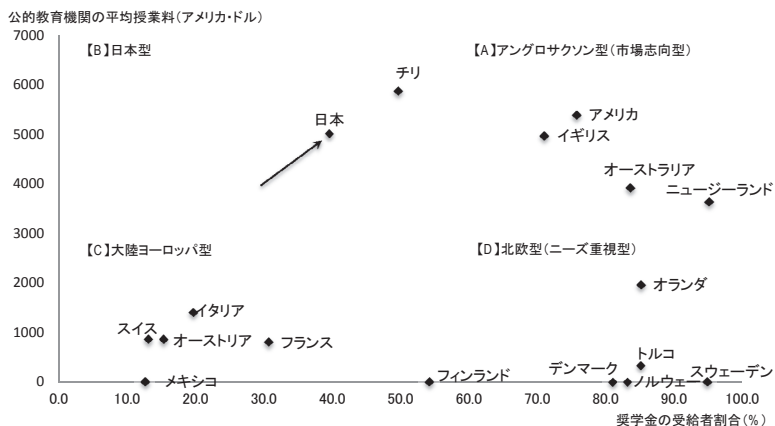


図1 公的高等教育機関の授業料と奨学金の受給者割合  
出所) OECD 2014, Education at a Glance より作成。

こうした高い授業料は、日本の教育財政の規模が極めて小さいことに由来している。図2は、教育段階別にみた公的教育費の対GDP費を示したものであるが、日本の高等教育支出が世界で最も小さい部類にあることが読み取れる。この事実は、家計の教育費負担が重いということにも直結する。図3は高等教育費の公私分担関係を示したものであるが、日本の家計部門の負担の重さは明らかであろう。

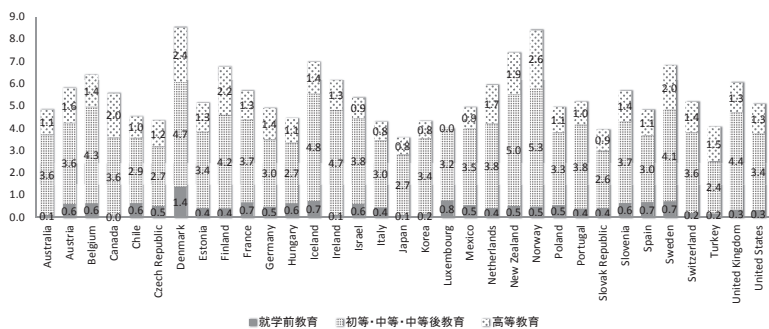


図2 教育段階別にみた公的教育費の対GDP費  
出所) OECD 2014, Education at a Glance より作成。

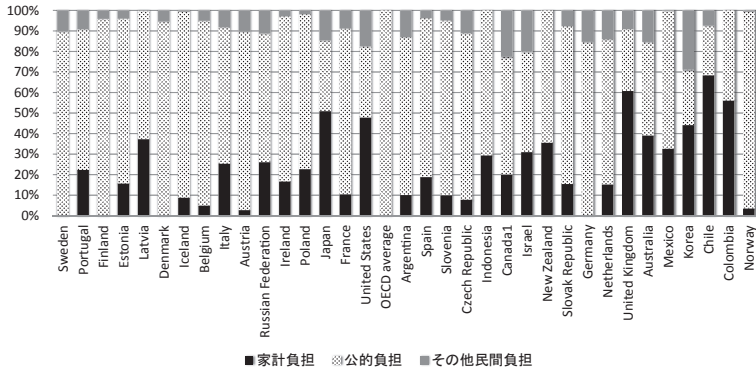


図3 高等教育費の公私分担関係

出所) OECD 2014, Education at a Glanceより作成。

問題は、あまりにも重い教育費負担に人々が徐々に耐えられなくなってきたことにある。ワーキングプアやブラック企業という言葉に象徴されるように、雇用はすでに生存を支えるに十分なものではなくなりつつあり、所得は急速に落ち込んできた。結果として、教育費や生活費の負担を子どもへと転嫁せざるを得なくなった。奨学金を利用する学生が一般化してきたのは当然である。

もっとも、これだけをみれば多額の教育費負担を奨学金の給付によって相殺するアメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランドといったアングロサクソン型の教育財政に近づきつつあるだけのように見える(図1)。しかし、図4をみれば、日本の特異な教育費負担のあり様分かるであろう。日本における「奨学金」のほとんどが、返済が必要な貸与型奨学金だからである。アングロサクソン諸国はたしかに学費は高くなっているが、日本よりも返済不要の給付型奨学金が充実しており、これが学生負担の軽減につながっているのである。

冒頭で紹介した「奨学金訴訟」は、若者たちの怠惰ゆえでは決してない。

雇用が劣化するなかで、数百万円もの奨学金＝借金を返済していくことは極めて困難になりつつある。

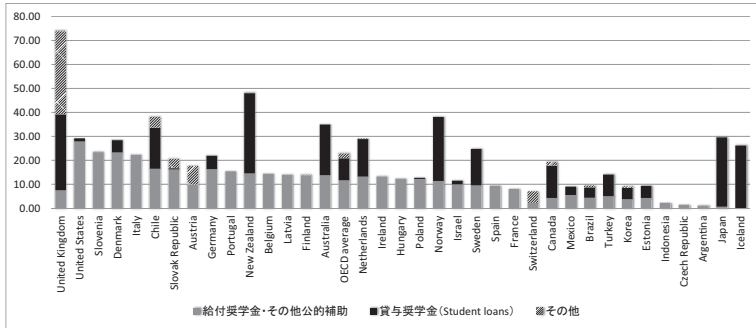


図4 高等教育費に対する家計への公的教育支援の割合  
出所) OECD 2014, Education at a Glanceより作成。

## 2. 奨学金アンケートから見てきた教育財政の矛盾

さて、こうした日本特有のローン型奨学金の問題について、当の大学生たちはどのように考えているのであろうか。私は、2015年11月から12月にかけて、宮城県内の三つの私立大学の1年生から4年生を対象に奨学金に関するアンケート調査を行った(「みやぎ奨学金問題ネットワーク学生奨学金調査」)。母数は537名である。ここからいくつか主だったものを紹介しよう。なお、設問項目の詳細については本論最後の資料を御覧いただきたい。

まず、「おうちの暮らし向き(経済状況)にはゆとりがありますか」という設問に対しては、およそ半数の261名の学生が「ゆとりがない」と回答した(図5)。このうち、「全然ゆとりがない」と答えたものは58名おり、生活の厳しさを感じさせる。「学費は誰が払っていますか」という設問についても、「保護者と自分」「自分」と答えた学生が77名いたこともこのことを裏付けている。いまや生活費部分のみならず、学費そのものを学生自身で

賄っているのである。

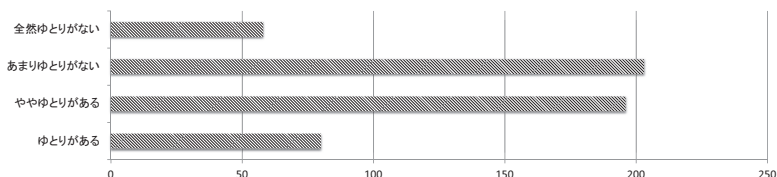


図5 おうちの暮らし向き (経済状況) にはゆとりがありますか

結果、奨学金利用者は267名とほぼ半数にのぼった。これは全国的な動向と同様である。これらの学生のほとんどが日本学生支援機構の貸与型奨学金を利用している (図6)。他方で、「利用していたがやめた」「利用したことがない」と答えた学生についてはどうか。彼らの多くは、「親からの仕送りで十分なため」と回答しているが、「将来の返済が不安なため」というものも多くいた (図7)。また、「アルバイトをしているため」と回答する学生も無視できない数おり、これが学業に集中する時間を奪っている。このうち、「アルバイトは1週間で何時間程度行っていますか?」という設問に対しては、週20時間以上と回答するものが29名いた (図8)。週20時間以上ということは、日に5時間以上アルバイトをしていることになる。学費の問題は明らかに学業に影響を与えている。

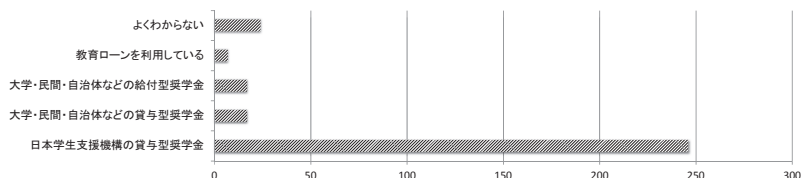


図6 どういった種類の奨学金を利用していますか

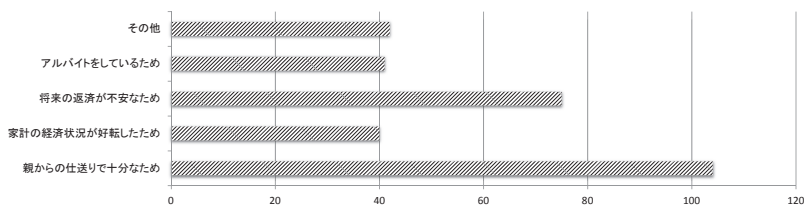


図7 奨学金を利用しなかった理由は何ですか

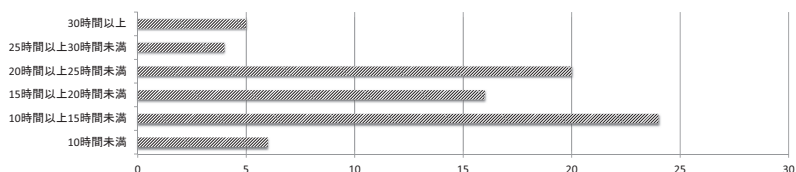


図8 「アルバイトをしているため」と答えた方にお聞きます。アルバイトは1週間で何時間程度行っていますか？

「1ヶ月の奨学金の借入額はおおよそいくらですか」という設問に対しての回答として最も多かったのは5万円である。これらの学生は、親の仕送りなど生計を立てる手段を他に持ちつつ、生活費を補完するものとして奨学金を利用していると思われる。もっとも、有効回答者219名のうち、8万円以上を借り入れている学生が58名いた(最大で12万円の借り入れ)。これらの学生は将来、毎月2～3万円程度の返済を迫られることになる。所得が低落しているなかであって、そのような返済額は彼らの肩に重くのしかかることが予想される。関連して、「アルバイト代を「将来の奨学金の返済にあてる」ことを考えていますか」という設問に対しては、驚くべきことに78名の学生が「考えている」と回答している。奨学金の返済に備えるためにアルバイトをするというのは、本末転倒な事態といってよい。

以上のように、現行の奨学金制度は学生へのセーフティネットとして十分に機能しているとは言い難い状況にある。このことを反映し、多くの学

生が返済不要の給付型奨学金を導入すべきと回答した。

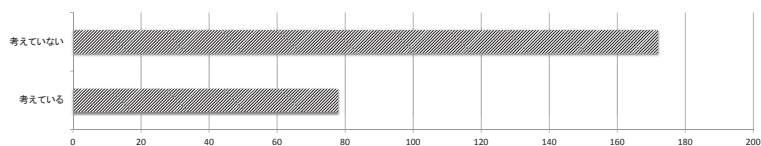


図9 現在、アルバイトをしている方にお聞きます。アルバイト代を「将来の奨学金の返済にあてる」ことを考えていますか。

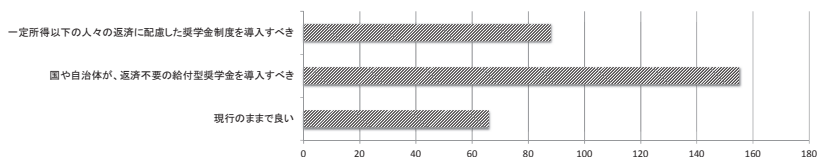


図10 現在の奨学金制度について、どのように考えていますか。下記からもっとも近いものを1つ選んでください。

最後に、自由記述欄に記入された学生の声をみておこう。多くは現行の奨学金制度を不安視する声であった。

- ・安定した職につけるかも分からないのに、卒業したと同時に借金返せと言われる毎日はイヤです。
- ・返済に何年かかるか不安。親には頼れないし迷惑をかけたくない。
- ・ちゃんと返済していけるか不安。父がこの間全額払い終えたらしく、ずっとこの先も払い続けなければならないことを実感した。
- ・もし自分が仕事につけなかった時の返済の対応が不安
- ・30代後半まで返済しなければならないと考えると、将来自分の子どもの為の習い事やレジャー費などに使うお金の余裕があるか不安である。
- ・もっと給付型の奨学金制度を取り入れていくべき。日本の教育が充実し



ない。

- ・40歳近くまで返済が続くことへの不安
- ・利息ありの借入を行った場合、返済で100~200万円借入額と違ってくるというのは返済する上で大きな障害となる。
- ・返済のことばかりに気をとられて将来の具体的な計画を立てられない。学力社会のくせに大学へ行くのも大変な状況をつくっている。そんなに大学進学が大事な国なら返済しなくてよくて、負担がかからず誰にも夢をもたせた奨学金にしてください。
- ・親は「自分の子どもに借金をさせたくない」と強く言いながらも、仕方なく奨学金を借りなければ学べないというのが現状です。本当はもっとやりたいことがあるけれど勉強の時間のことを考えるとこれ以上アルバイトを増やすことはできません。
- ・奨学金という名の借金を学生に与えている。今の奨学金制度を見なおしてほしい。また、ちゃんと奨学金を返済できるのかとても不安である。
- ・利子がついていくので、きちんと返すことが出来るのか不安です。妹も大学に通っているのですがどうしても奨学金を借りなければならないのですが、本当は借りたくないです。
- ・奨学金はある種の借金なので、将来結婚のことを考えると、すべて返済し終わったあとにしかしたくないと思ってる。

### 3. 教育財政改革論議への示唆

以上、本論では、世界的にみて高い学費が多額の奨学金の借り入れにつながっていること、そしてまた、多くの学生がこうした現状に不満を感じ、何らかの改革を要望していることを明らかにしてきた。

そうした意味では、政府が2018年度からの導入を検討している給付型奨学金制度は大きな前進であるといつてよいであろう<sup>2</sup>。現在までのところ、住民税非課税世帯2万人を対象に月3万円の奨学金が給付される予定であ

る。貸与型の奨学金が多く、若者の貧困を拡大させていることを考えれば、歓迎するものも多いであろう。

ただし、政府が検討している給付型奨学金が不十分なものであることもまた明らかである。現在、大学・短大に進学する学生数はおよそ60万人ほどであることを考えれば、給付型奨学金の対象となる学生数はわずか3%ほどであり極めて少ない。加えて、本アンケートでも多くの学生が5万円以上借りていたことを思えば、3万円のみではならず、貸与型との併用を希望する学生が多くいることが予想される。

結果として、給付型奨学金が導入されたあとも、奨学金による若者の貧困化という事態は生じ続けるであろう。いずれにせよ、教育財政のあり様に根本的な変化がない以上、改革の手を休めてはならない。給付型奨学金が機能する前提条件を作るために、教育を無償化する方向性を模索することも一案であろう（佐藤 2016）。日本の教育費負担の自己責任主義は根強いが（中澤 2014）、若者の現状は厳しく、過酷である。議論の活発化が望まれる。

## 参考文献

OECD 2014, Education at a Glance.

佐藤 滋 (2016) 「選別主義を強化する？ 給付型奨学金をめぐる議論の陥穽——教育サービスの現物給付化による普遍的な保障を」『POSSE』堀之内出版、第32巻、78～87頁。

中澤 渉 (2014) 『なぜ日本の公教育費は少ないのか 教育の公的役割を問う』勁草書房。

広田照幸 (2013) 『大学とコスト』岩波書店。

---

<sup>2</sup> 2016年12月1日付朝刊『朝日新聞』。

## 謝辞

アンケート調査を行うにあたって、宮城学院女子大学の田中史朗先生と日本キリスト教団仙台北三番丁教会の川上直哉牧師にご協力いただいた。ここに記して感謝したい。

## 資料

## みやぎ奨学金問題ネットワーク学生奨学金調査

## 調査ご協力をお願い

本調査は、学生の皆さんの奨学金の借り入れの状況と抱えている問題を把握し、必要な対策を検討するために、みやぎ奨学金問題ネットワークが実施するものです。調査結果は統計的に分析し、個人名などが特定されることはありません。ご回答いただいた内容は調査目的以外には決して使用いたしません。率直にご回答いただけるよう、お願いします。

## まず、あなたについて、おうかがいします

F1 学年(○は1つ)

1 1年生       2 2年生       3 3年生       4 4年生以上

F2 現在住んでいるところは。(○は1つ)       1 自宅       2 自宅外(アパート・寮等)

F3 おうちの暮らし向き(経済状況)にはゆとりがありますか。(○は1つ)

<input type="checkbox"/> 1	ゆとりがある	<input type="checkbox"/> 3	あまりゆとりがない
<input type="checkbox"/> 2	ややゆとりがある	<input type="checkbox"/> 4	全然ゆとりがない

F4 学費は誰が払っていますか。下記からもっとも近いものを1つ選んでください。(○は1つ)

<input type="checkbox"/> 1	保護者
<input type="checkbox"/> 2	保護者と自分
<input type="checkbox"/> 3	自分

F5 あなたは大学生になってから奨学金を利用したことがありますか。(○は1つ)

<input type="checkbox"/> 1	利用している
<input type="checkbox"/> 2	利用していたがやめた
<input type="checkbox"/> 3	利用したことがない

F6 「F5」で「利用していたがやめた」「利用したことがない」と答えた方にお聞きします。奨学金を利用しなかった理由は何ですか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

<input type="checkbox"/> 1	親からの仕送りで十分なため
<input type="checkbox"/> 2	家計の経済状況が好転したため
<input type="checkbox"/> 3	将来の返済が不安なため

4	アルバイトをしているため
5	その他 (具体的に: _____)

F7 「F6」で「アルバイトをしているため」と答えた方にお聞きます。アルバイトは 1 週間で何時間程度行っていますか？ (○は1つ)

1	10 時間未満	4	20 時間以上 25 時間未満
2	10 時間以上 15 時間未満	5	25 時間以上 30 時間未満
3	15 時間以上 20 時間未満	6	30 時間以上

F8 「F6」で「アルバイトをしているため」と答えた方にお聞きます。アルバイトで毎月平均どれくらいの収入がありますか？ (○は1つ)

1	3 万円未満	4	7～8 万円程度
2	3～4 万円程度	5	それ以上
3	5～6 万円程度		

#### 奨学金の借り入れ状況や返済の問題について、おうかがいします

※1 大学生になってから奨学金を利用したことがない方は、お応えいただく必要もありません。  
 ※2 過去に借りたことはあるが、現在奨学金を借りていない方の場合には、過去に借りていた奨学金の状況について、お答えください)

Q1 どういった種類の奨学金を利用していますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

1	日本学生支援機構の <u>貸与型</u> 奨学金を利用している
2	大学、民間、自治体などの <u>貸与型</u> 奨学金を利用している
3	大学、民間、自治体などの <u>給付型(返済不要の)</u> 奨学金を利用している
4	教育ローンを利用している
5	よくわからない

Q2 「Q1」で「日本学生支援機構の貸与型奨学金を利用している」と答えた方にお聞きます。どういった種類の奨学金を利用していますか。(○は1つ)

1	第一種奨学金(無利息)
2	第二種奨学金(利息付)
3	第一種奨学金と第二種奨学金の併用

Q3 「Q1」で「日本学生支援機構の貸与型奨学金」「大学、民間、自治体などの貸与型奨学金」「教育ローン」を利用していると答えた方にお聞きします。将来の奨学金の返済について、どのように感じていますか。(○は1つ)

1	将来の返済が心配である	3	将来の返済についてはあまり心配していない
2	将来の返済がやや心配である	4	将来の返済については全く心配していない

Q4 「Q1」で「日本学生支援機構の貸与型奨学金」「大学、民間、自治体などの貸与型奨学金」「教育ローン」を利用していると答えた方にお聞きします。保証人や連帯保証人には誰がなっていますか。(あてはまるものすべてに○)

1	父母
2	兄弟・姉妹
3	祖父母
4	おじ・おば
5	機関保証制度を利用している
6	その他 (具体的に: _____ )

Q5 1ヶ月の奨学金の借入額はおよそいくらですか。(複数の借り入れ先がある場合は、合計の金額をお答えください)

約( \_\_\_\_\_ )円 (記入例:50,000)

Q6 現在借りている奨学金の額について、学生生活を送るうえでどのように感じていますか。(○は1つ)

1	十分に足りている	3	あまり足りていない
2	それなりに足りている	4	全く足りていない

Q7 「Q6」で「あまり足りていない」「全く足りていない」と答えた方にお聞きします。生活費の不足をどのように補っていますか。あてはまるものすべてに○を付けてください。

1	親からの仕送り
2	アルバイトをしている
3	生活費を切り詰めている
4	その他 (具体的に: _____ )

Q8 「Q7」で「アルバイトをしている」と答えた方にお聞きします。アルバイトは1週間で何時間程度行っていますか? (○は1つ)

1	10 時間未満	4	20 時間以上 25 時間未満
2	10 時間以上 15 時間未満	5	25 時間以上 30 時間未満
3	15 時間以上 20 時間未満	6	30 時間以上

Q9 「Q7」で「アルバイトをしている」と答えた方にお聞きます。アルバイトで毎月平均どれくらいの収入がありますか？（○は1つ）

1	3 万円未満	4	7～8 万円程度
2	3～4万円程度	5	それ以上
3	5～6 万円程度		

Q10 現在、アルバイトをしている方にお聞きます。アルバイト代を「将来の奨学金の返済にあてる」ことを考えていますか。（○は1つ）

1	考えている	2	考えていない
---	-------	---	--------

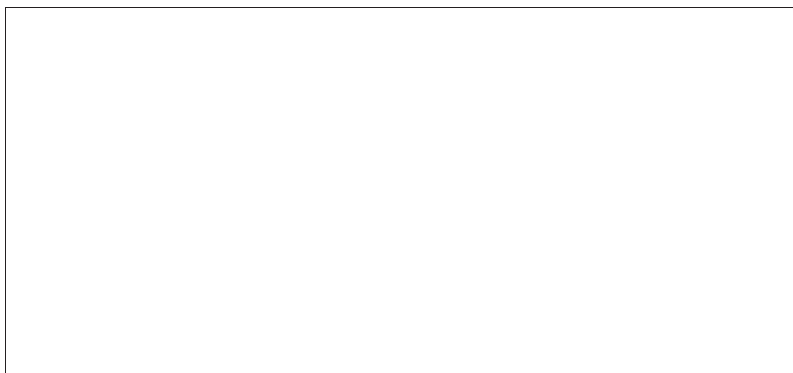
Q11 奨学金制度の借入れや返済条件について、どの程度理解していますか。下記からもっとも近いものを1つ選んでください。（○は1つ）

1	良く理解している	3	あまり理解していない
2	それなりに理解している	4	全く理解していない

Q12 現在の奨学金制度について、どのように考えていますか。下記からもっとも近いものを1つ選んでください。（○は1つ）

1	現行のままで良い
2	国や自治体が、返済不要の給付型奨学金を導入すべき
3	一定所得以下の人々の返済に配慮した奨学金制度を導入すべき

Q13 奨学金の借入れや返済などに関して不安を感じていることがあれば、自由に記入してください。



アンケートは以上です。ご回答ありがとうございました。